

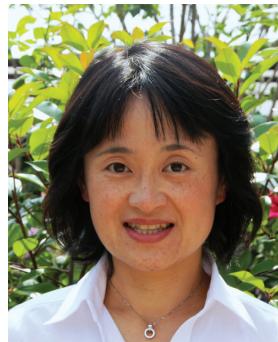
# 社会心理学者かく闘えり

関西学院大学文学部総合心理科学科 教授

三浦麻子（みうら あさこ）

## Profile — 三浦麻子

1992年、大阪大学人間科学部卒業。1995年、同大学院博士後期課程中退。同年、同大助手。博士（人間科学）。専門は社会心理学、特にオンラインコミュニケーションに関する実証的研究に従事。著書は、『人文・社会科学のためのテキストマイニング』（共著、誠信書房）、『インターネット心理学のフロンティア』（共編著、誠信書房）、『ウェブログの心理学』（共著、NTT出版）など。



本稿は、日本社会心理学会の震災特設サイト「東日本大震災を乗り越えるために：社会心理学からの提言と情報」(<http://bit.ly/jsspjishin>) を構築するまでの、筆者を含む広報委員会の活動の記録である。主にツイッターとメーリングリスト（ML）の記録に基づいて震災後の約2週間を振り返る。心理学の研究成果を社会に還元する試みの一つとしてお読みいただければ幸いである。

**震災前～震災直後** 表1に、筆者(@asarin)のツイッター上の発言（ツイート）から、この活動に深く関わるものを見抜いて時系列順で示した。3.11は、やや大きな仕事を済ませて、久しぶりに研究室でのんびりと過ごそうとしていた週末だった（TW1）。震災第一報はツイッターのタイムラインで知った。東京や千葉、あるいは函館で強い揺れを感じたというツイートを目にした直後（TW2）から、次々と入る地震速報（TW3）やリツイートされる報道機関などからの情報が画面を埋め尽くした。穏やかな気分は雲散霧消し、ぴくりとも揺れない足下の地面とモニタに映し出される津波の中継動画とのギャップがどうしても理解できず、悪夢を見ているような気分で週末を過ごした。そんな中、ある会員から広報委員会宛に「関西電力からの節電要請」の学会メールニュースでの配信希望が寄せられるという事態が3.12深夜に発生した。もちろん丁重にお断りしたが、この出来事は、心理学者がすべきこととその広報方法について筆者に考えさせるきっかけとなった（TW4）。

**雌伏期** 週明け、震災に関する情報収集を続ける中で、いくつかの「声」を目にするようになった。それは、震災直後の混乱した状況でわれわれがどう行動すべきかについて社会心理学者という立場から情報を提供しようとする試み（TW5）の数々であった。特に現に被災地にあって発言する飛田操氏（福島大学）によるものには強く心を動かされた。これらをなんとか多くの人の目に触れさせて、今どうすべきかを考えもらうための一助として、社会心理学者にもできることははあるはずだ、という思いが膨らんだ（TW6）。

**個人的活動期** しかし個人の力ではいかんともしがたいのでは、とじりじりしながら関係学会の動きを探っていた筆者（TW7）は、一方で、社心学会サイトを置く国立情報学研究所（NII）のサーバが断続的にダウンする状況に苛立つていた（TW8）。そんな筆者の背中を具体的な活動の展開に向けて強く押したのは、同じく広報委員（当時）の藤島喜嗣氏が自身のブログであげた「声」だった。社会心理学の研究は必ずしも実社会に還元される必要はない、基礎的知見の積み重ねこそが大事だと言い続けていた彼の逡巡の挙げ句の行動は、筆者にとって特別な意味を持っていた（TW9）。声をあげられる、あげるべき社会心理学者は数多くいるのではないか。そのための場所を用意すれば、彼らの背中を押せるのではないか、と考えたのである。そして、学会サイトを更新するのが難しいなら、この際自分たちで立ち上げよう、と。

**委員会活動期** サイト立ち上げを決意したの

表1 東日本大震災当時（2011.3.11-24）のツイッターログ（抜粋）

| TW | 日時                 | 内容   | 活動時期   |
|----|--------------------|--|--------|
| 1  | 2011.3.11 10:55:39 | 報告書第1稿（付録こみ）作成だん。コメントをもらわないと次に行けないので、今日はもうやらないよ、あとは好きなことするよ。わあい。   | 震災前    |
| 2  | 2011.3.11 14:45:58 | あら、だいぶ揺れてるみたい。心配。  | 震災直後   |
| 3  | 2011.3.11 14:55:08 | うわ、震度7…これは…  |        |
| 4  | 2011.3.13 08:49:10 | 昨夜のチェーンメール騒動（学会ニュースメールで「関電からの…」を流してほしいという依頼が来た。断った）が終わって考えたことは、学会あるいは諸学会連合でできることはなんだろう、ということ。そういうことの広報は是非したい。  |        |
| 5  | 2011.3.14 11:06:00 | @ryuhei_tsuji 専門家のコメントも含め、情報提供に感謝です。しかるべき機関のアカウントを文末等に付記されれば、お声が届く可能性がより高まるかと、ご無礼しました。   | 雌伏期    |
| 6  | 2011.3.15 20:18:43 | @daihiko @gsd9720 さんがおっしゃるとおり、覚悟なんだろと。今日研修で話しながらも思いましたが、我々はあまりにも知られていない。心理学者は「心のケア」とは別の形でもこの非常に生きるかもしれないことを知ってもらいたい。   |        |
| 7  | 2011.3.16 08:56:56 | 社心学会やグルダイは何か動こうとしているのか？平会員にはまったく動きが見えない（あ、グルダイは理事なんだっけw）。日心はちらっとだけ聞いたけど現時点では尻すぼみっぽい。<br>@ninojiさん、@pentaxさん、@Mizoskiさん、どうでしょう？   |        |
| 8  | 2011.3.16 09:00:01 | @ryuhei_tsuji こういうご活動を、会員によるものとして学会サイトでも紹介したいです。NIIが部分的には復旧しそうなので、更新＋アクセスできるようになれば。  | 個人的活動期 |
| 9  | 2011.3.16 09:52:54 | @gsd9720 おお、ついにご覚悟を！ 広報委員会の方で、こうしたサイトをまとめる（当然広報委員は更新できる）サイトを勝手に作り、NIIが復旧したら社心学会ページからリンクを張るのはどうでしょう？  |        |
| 10 | 2011.3.16 12:59:48 | このたびの震災に関する社会心理学者からの提言をまとめるサイトを個人的に制作中です。同種のウェブコンテンツをご存じの方々是非お知らせください。 <a href="http://tinyurl.com/4lrvbth">http://tinyurl.com/4lrvbth</a>   |        |
| 11 | 2011.3.16 22:45:21 | とりあえず「しくみ」づくりっぽだん。今朝作った個人サイトを撤収して、今後は学会広報委員会運用に移行します～。いやあ、ネットワークコミュニケーションって、素晴らしいですね～。   |        |
| 12 | 2011.3.16 22:58:20 | @pentax ありがとうございます！早めに追認できるとおっしゃってくださったので、非常に助かりました！！  |        |
| 13 | 2011.3.16 23:09:15 | 今朝作成・広報した「東北地方太平洋沖地震に関する社会心理学者からの提言」まとめサイトは発展的に解消し、日本社会心理学会広報委員会によるサイトに引き継がれました（私も中の人の一人です）。今後ともどうぞよろしくお願ひします。 <a href="http://tinyurl.com/4ty5yhj">http://tinyurl.com/4ty5yhj</a> |        |
| 14 | 2011.3.17 07:26:39 | 海外の心理系学会も様々に記事をリリースし始めた。有用なものは差し支えない範囲でサマリを流したい。許可を得るというか知らせるのはいいとして、訳を手伝ってくれる方はないだろうか。  |        |
| 15 | 2011.3.17 09:17:21 | #jsspijishin 海外心理学関係学会のこの記事を訳してみる、という方はこのハッシュタグ a/o @asarin をつけてツイートしてください。その際は訳者実名（と所属）を含むオンラインドキュメントとしての公開にご同意ください。  | 委員会活動期 |
| 16 | 2011.3.19 15:34:10 | ふと思ったのだが、広報委員会で実際誰が作業しているのか、知らない人が多いのかも。名前を出せば、若干でも敷居が低くなる、かな？   |        |
| 17 | 2011.3.20 09:59:26 | @kosukesa 学会のオーサライズ大事です。当方の試みはすぐに常任理事会から追認でOKというお声をいただいて、随分助かりました。   |        |
| 18 | 2011.3.20 10:05:21 | @kosukesa あとは数名の有志による活動がある程度いけそうと見始めた時点で手を広げることも大事だと思います。長く続けるには一部の人の大活躍だけでは保たないので。  |        |
| 19 | 2011.3.21 13:25:04 | @tkobyashi ああいつ発信をしたいよねえとずっと言ってたんですが、このたびの出来事に思い切り背中をどつかれたってとこですね。私は何の学術的なドキュメントも書かず、色んな人の背中を小突いて回る役。  |        |
| 20 | 2011.3.24 09:10:29 | つ、ついに学会ページから特設サイトへのリンク完了。 <a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssp/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssp/</a>  |        |

注1：ツイートに登場するアカウント（@文字列）は、@ryuhei\_tsuji 辻竜平氏（信州大学）、@daihiko 中西大輔氏（広島修道大学）、@gsd9720 藤島喜嗣氏（昭和女子大学；広報委員（当時））、@ninoji 川浦康至氏（東京経済大学；広報委員長（当時））、@pentax 北村英哉氏（東洋大学；事務局長（当時））、@Mizoski 浦光博氏（広島大学；日本グループ・ダイナミックス学会会長（当時））、@kosukesa 澤幸祐氏（専修大学）、@tkobyashi 小林哲郎氏（国立情報学研究所；広報委員（現在））。@文字列が文頭にあるツイートは当該アカウント保持者によるツイートへの返信であることを示す。

注2：日時データは実際とわずかに整合していない（震災発生時刻よりTW2のタイミングが早い）が、ログデータをそのまま記載した。

注3：ログデータは「Twilog」を使って記録したものである。全ログは <http://twilog.org/asarin> から参照可能。

が3.16の午前中。上記の「声」へのリンク集を個人的に作成・公開したのが12時過ぎ(TW10),「日本社会心理学会広報委員会の活動として推進しましょう」と広報委員会MLで提案したのが16時前。すぐに川浦康至広報委員長(当時)からの支持と五十嵐祐委員(北海学園大学)からのGoogleサイト使用の推薦が得られた。五十嵐氏は19時にはひな型を完成させてくれ、23時頃には「学会広報委員会が運用する」震災特設サイト公開に至った(TW11, 13)。この間わずかほぼ半日であった。

初動から公開までの速さを支えたのは、広報委員会の活動に対する学会執行部からの全面的な支持・黙認である。北村英哉事務局長(当時)は、広報委員会のサイトを常任理事会で追認する旨のコメントをツイッター上でくださり、安藤清志会長は、サイトに掲載する会長コメントをすぐに寄せてくださった。こうしたオーサライズを迅速に得られたことは、われわれの活動の強力な基盤となった(TW12, 17, 18)。また、川浦広報委員長は、最初のサイト作成の提案から3.24までの間に委員6名で計500通近くのメールが交わされるという「異常な状況」をあたたかく見守ってくださり、そのことが公開後のコンテンツ充実への駆動力となった。

そして、多くの会員がこの動きに呼応して続々と「声」をあげてくださったことが「ここで突っ走らなくてどうする」という気持ちを高めていた。主たるコンテンツは社会心理学からの「提言」と「情報」の二つだが、前者はメールニュースで提供を募集したり、これと思った方にはこちらから声をかけたりしながら、着実にリンク先を増やしていく。リンク先記事の信頼性や妥当性の保証については議論があったが、最低限の学術性をもつものであれば、たとえ意見の相違があったとしてもすべて含めるのが学会運営サイトとしてふさわしいと判断した。後者は、海外のニュースサイト等に掲載された震災と心理学に関わる記事を探索して日本語抄訳を作成するものと、学会誌『社会心理学研究』の中から関連論文を抽出し、著者と連携して一般向けの抄訳を作成するものの二つがあ

ったが、メンバーだけではとても手が回らないので、若手研究者の有志ボランティアを募り、委員の主導のもとで続々とコンテンツが加えられていくこととなった(TW14, 15, 18)。

こうした力に支えられた委員同士の「あうんの呼吸」による作業分担もスムーズかつ絶妙で、それぞれがやれることをやれるだけやるというスタンスが徹底していた。委員のうち藤島氏と森津太子氏(放送大学)は在京で計画停電の多大な影響を受けていたため、日常的な更新作業は主に五十嵐氏と筆者が担い、サイト運営方針の整理やボランティアのとりまとめなどを任せする、といった具合であった。筆者にとっては、社会に資する社会心理学者として行動しようとする熱い思いをこれほどまでに多くの人と共有できたのは初めての経験で、震災をきっかけにしたものでなければよかったですのに、と思う一方で「私がしたかったことはこれだった」という感慨も深かった(TW19)。

そして3.24、ようやく学会サイトからのリンクが完了し、名実ともに「日本社会心理学会による震災特設サイト」となった(TW20)。その後ほどなく、学会サイトも独自ドメイン(<http://www.socialpsychlogy.jp>)による運用に移行した。4月下旬、広報委員会は委員長と一部の委員が交代し、新体制が発足したが、サイト運営に関するスタンスはいささかも変わることはなかった。

**震災後1年の今思うこと** 私事と私情をふんだんに交えながら広報委員会の活動を振り返ってきたが、これが本当に社会の役に立ったのかと言われば、よくわからない。おそらくその影響はごく小さな範囲にとどまっているだろうし、われわれは相変わらず「あまりにも知られていない」だろうし、それを「知らない方が悪い」と言える状況でもないだろう。しかし、ただ「これができる(はず)」という理念にとどまらない「とにかくやった」という経験の共有が無形の財産となったことは間違いない。これがわれわれの独善的な満足にとどまることなく、より被災者の方々に資するようなものとなるべく、たとえ形は変わろうとも、学会として息長く活動を継続していきたい。